

第5回 南知多町立小中学校規模適正化懇談会 次第

令和2年9月7日（月）10時

南知多町役場 大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 前回の議事内容の確認

4 議 事

(1) 中学校の適正配置（中学校の再編）計画について

① 通 学 (資料1)

② 救急搬送先との距離 (資料1)

③ グラウンドの様子（部活動に関して） (資料2)

・豊浜中のグラウンド拡張は、用地買収が伴う上、斜面を造成するため現実的ではない。

④ 施設の状況比較 (資料3)

⑤ 防災面の比較 (資料3)

⑥ 教育活動の比較 (資料4)

⑦ その他 (資料5)

(2) 学校再編を進める上での配慮事項について (資料6)

(3) 懇談会で出された主な質問・意見のまとめ (資料7)

(4) その他

5 閉 会

通学方法・所要時間のイメージ 資料改訂について

【資料の改訂点】

○内海中学校に統合した場合のイメージ

- ・内海・山海地区においても、通学路の安全が確保できない自転車通学についても、バス停留所が近ければ海っ子バス、遠ければスクールバスでの通学を検討することを明記しました。
- ・両島通学方法について、師崎港から内海中学校までの行程について「高速道路利用時」の運行時間目安で明記しました。

○豊浜中学校に統合した場合のイメージ

- ・豊浜・豊丘地区においても、通学路の安全が確保できない自転車通学についても、バス停留所が近ければ海っ子バス、遠ければスクールバスでの通学を検討することを明記しました。
- ・スクールバスを使用する場合について、豊浜中学校のすぐそばまでバスを乗り入れることの安全確保が難しいことから、現在の「給食センター」をバス乗降場所とし、そこから中学校までは徒歩で移動することを明記しました。なお、実際に歩いた場合、大人の足で約7分かかりました。
- ・「大井、片名、師崎地区」と「山海（西村・小野・岩屋除く）地区」について、自転車通学だけではなく、通学路の安全が確保できない場合はスクールバス・海っ子バスでの通学を検討することを明記しました。
なお、実際の検討はPTAの皆様にも参加していただく検討部会にて、それぞれの地域の状況を確認しながら検討します。

※通学方法の目安として自宅から中学校までの距離が2 km以上6 km以内の生徒は自転車通学、6 kmを超える生徒は定期バスまたはスクールバスを利用します。

ただし、通学路の安全が確保できない場合は通学方法を検討します。

※所要時間は目安であり、自宅の場所や交通状況によって前後します。

※登校時のイメージとなります。

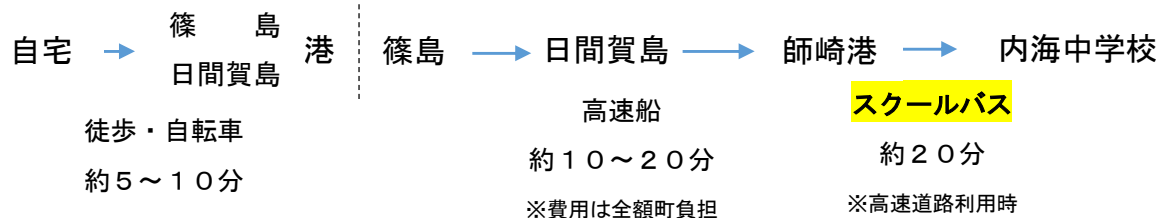
下校時は部活動等を考慮し、スクールバスの場合は2～3便運行予定です。

※実際の通学方法等は統合場所の決定後、PTAの皆様にも参加していただく検討部会を開催し、通学時の安全状況等を確認しながら、詳細を検討していきます。

○内海中学校に統合した場合のイメージ

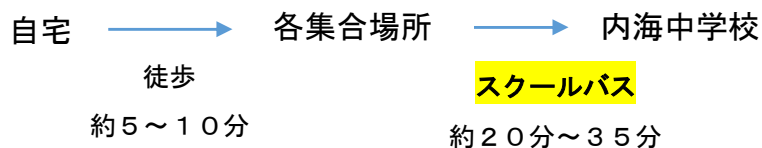
※内海・山海地区は、今までと同じ通学方法を検討しています。ただし、通学路の安全が確保できない自転車通学については、停留所が近ければ海っ子バス、遠ければスクールバスでの通学も検討します。

【両島】



※海っ子バスを利用する場合、乗り継ぎや待機時間により通学時間が概ね1時間を大きく超えてしまうことから、両島は師崎港から統合中学校までスクールバスで直行する運行を検討しています。

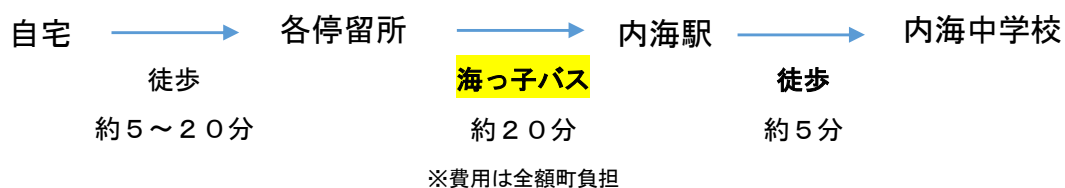
【豊丘・大井・片名・師崎地区】



※海っ子バスを利用する場合、乗り継ぎや待機時間により通学時間が概ね1時間を大きく超えてしまうことから地区毎に、それぞれスクールバスの運行（3～4台）を検討しています。

※集合場所など未確定のため、集合場所の数が少なくなるほど所要時間の短縮が可能となります。

【豊浜地区】



※海っ子バス（西海岸線）の増便やダイヤ調整をして利用することを検討しています。

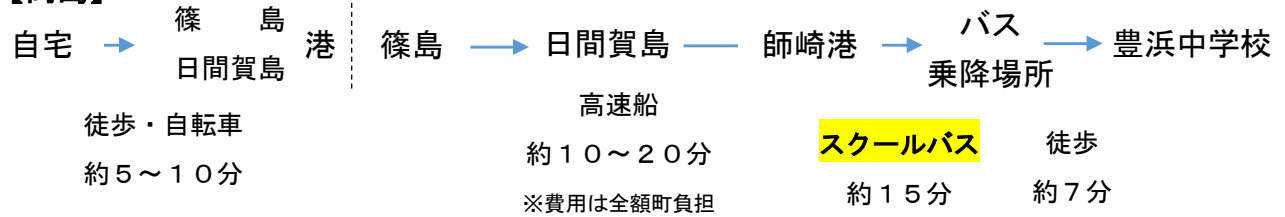
【ダイヤ参考】豊浜停留所：7時24分発 → 内海駅停留所着：7時42分着

○豊浜中学校に統合した場合のイメージ

※豊浜・豊丘地区は、今までと同じ通学方法を検討しています。ただし、通学路の安全が確保できない自転車通学については、停留所が近ければ海っ子バス、遠ければスクールバスでの通学も検討します。

※乗降場所は、「現給食センター」を想定しています。

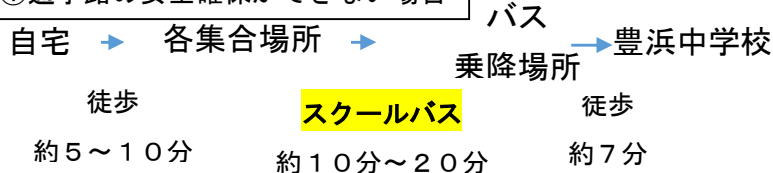
【両島】



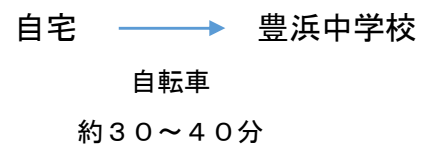
※海っ子バスを利用する場合、乗り継ぎや待機時間により通学時間が概ね1時間を大きく超えてしまうことから、両島は師崎港から統合中学校までスクールバスで直行する運行を検討しています。

【大井・片名・師崎地区】

①通学路の安全確保ができない場合

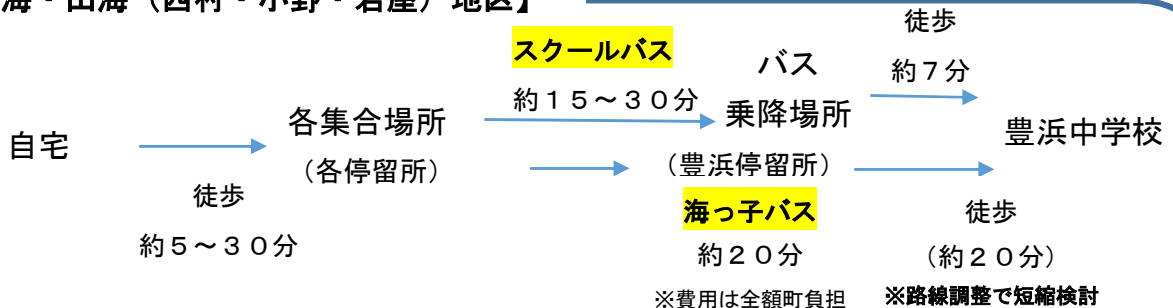


②通学路が安全な場合



※通学方法の目安として自宅から中学校までの距離が2km以上6km以内の生徒は自転車通学としていますが、想定される通学路（すいせんロード等）の安全確保が困難な場合、スクールバスの運行を検討しています。

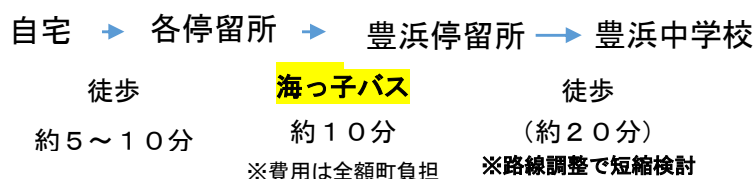
【内海・山海（西村・小野・岩屋）地区】



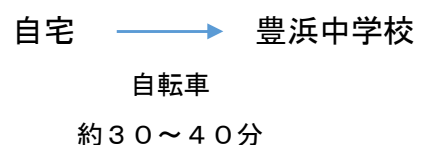
※海っ子バス（西海岸線）の路線調整をして、乗り換えせず「役場前」まで運行できるよう検討しています。
 ※海っ子バスを利用する場合、停留所が自宅の近くにないことから、概ね1時間を大きく超えてしまう地区もあるため、地区毎に、スクールバスの運行（1～2台）または海っ子バスの利用を検討しています。
 ※スクールバスの集合場所等未確定のため、集合場所の数が少なくなるほど所要時間短縮が可能となります。

【山海（西村・小野・岩屋除く）地区】

①通学路の安全確保ができない場合



②通学路が安全な場合



※海っ子バス（西海岸線）の路線調整をして、乗り換えせず「役場前」まで運行できるよう検討しています。
 ※通学方法の目安として自宅から中学校までの距離が2km以上6km以内の生徒は自転車通学としていますが、想定される通学路（国道247号線）の安全確保が困難な場合、海っ子バス利用を検討しています。

通学に要する時間等について（参考）

1 内海中の場合

<スクールバス利用>

○師崎港～内海中昇降口前まで（南知多道路利用）約19分

（但し、令和6年からは「すいせんロード開通」利用）

○師崎港～内海中昇降口（南知多道路利用せず）約22分

○師崎港～内海駅・持宝院（南知多道路利用せず）約22分

・持宝院から内海中昇降口 徒歩 3～4分

・内海駅ロータリーから内海中昇降口 徒歩 4～5分

○大井（コメリ）～内海中昇降口（南知多道路利用せず）約19分

<海っ子バス利用>

○豊浜～内海駅 約18分 + 徒歩 4～5分

2 豊浜中の場合

<スクールバス利用>

○師崎港～現給食センター 約11分

・現給食センターから昇降口 徒歩 6～7分

○師崎港～豊浜中昇降口 約12分

○大井（コメリ）～現給食センター 約10分

○内海～現給食センター 約18分

<海っ子バス利用>

○内海駅～役場前 約20分 + 徒歩 5～6分

※ 交通事情等により誤差が考えられる。

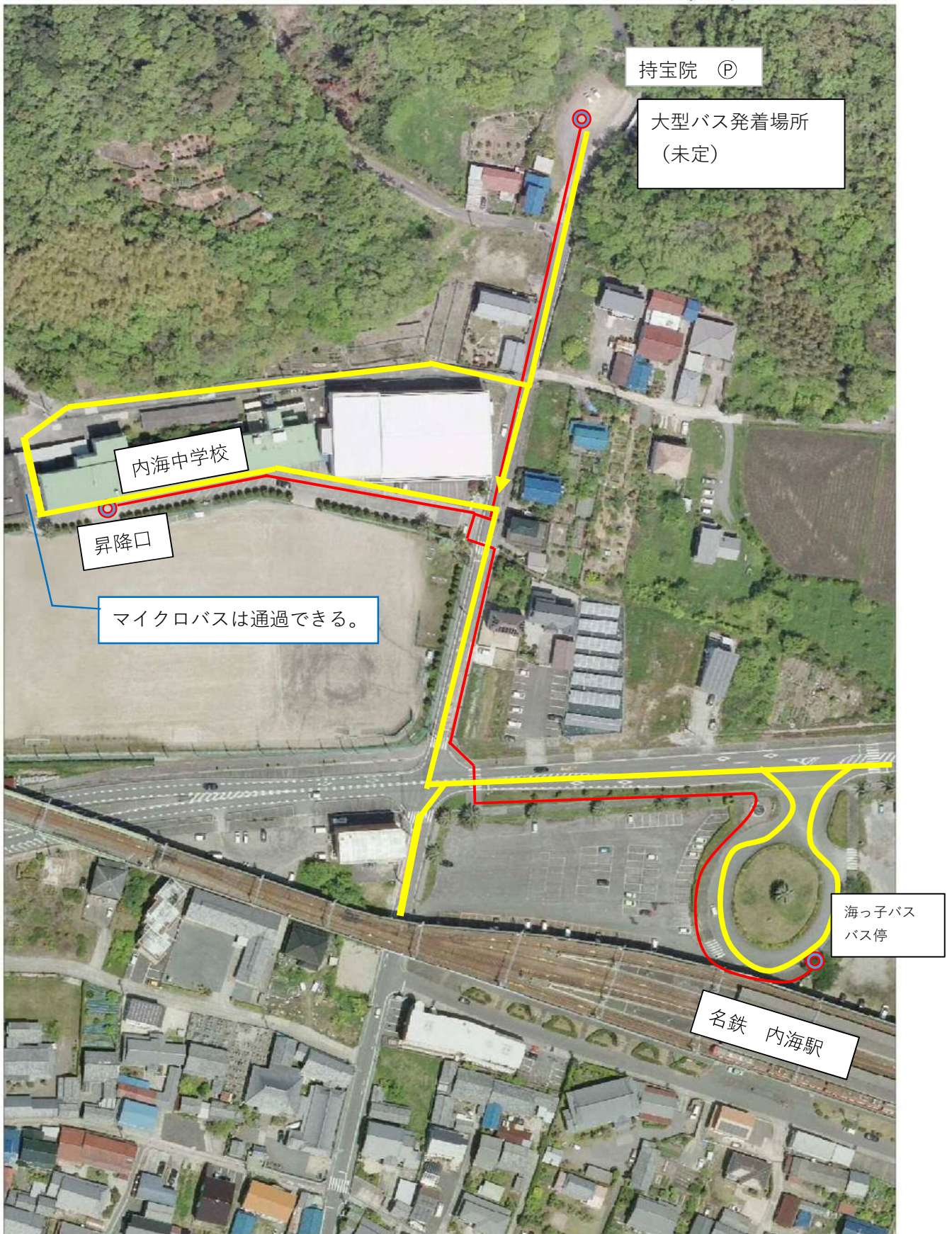
※ スクールバス運転手確保に課題があるため、海っ子バスとの併用を考慮しており、両島生徒の通学には大型バス利用、時間短縮のため南知多道路利用を想定している。

※ 両校ともに、徒歩通学生や自転車通学生の中には25分～30分程度の時間がかかる生徒がいる。

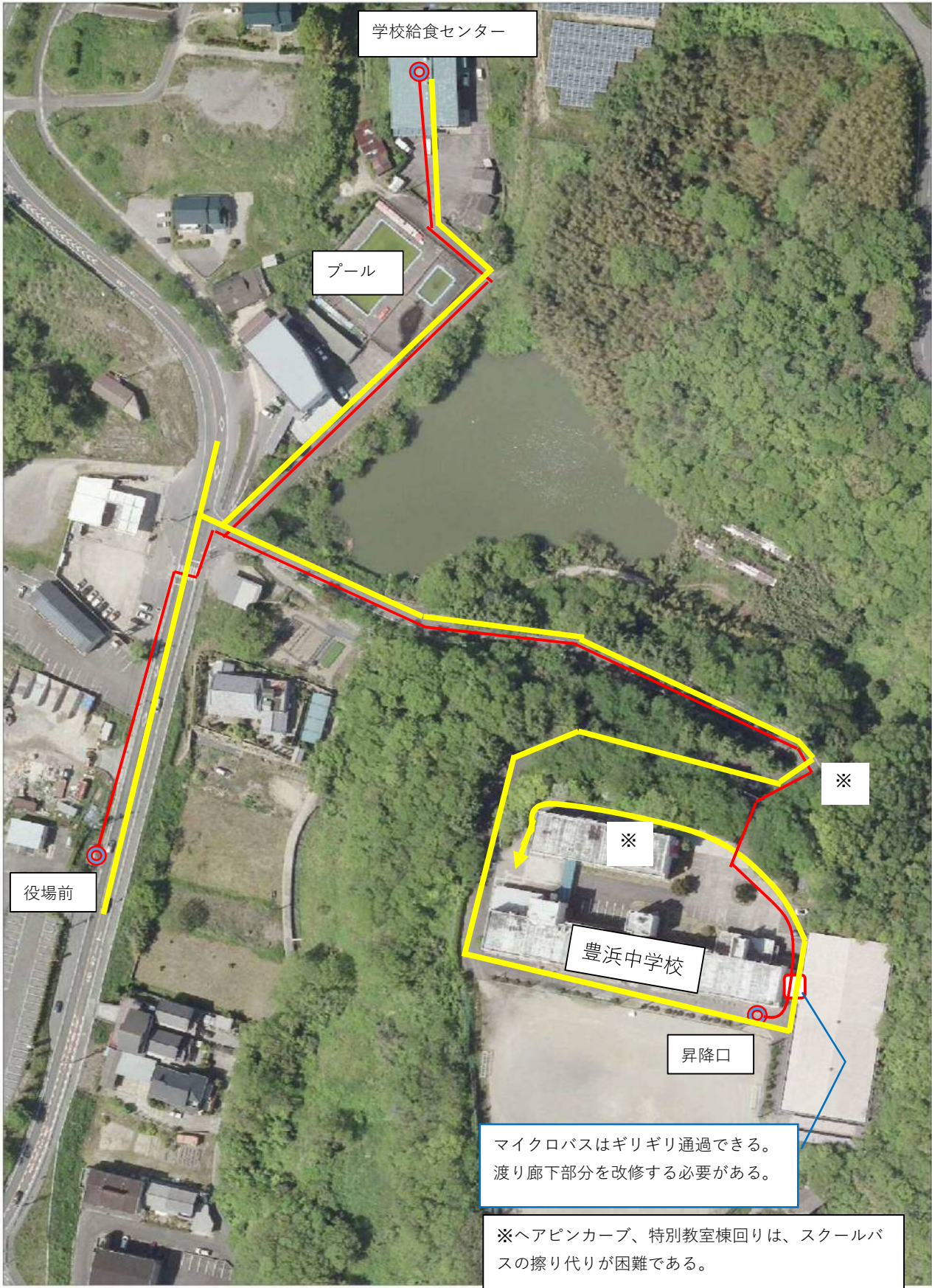
3 救急搬送先との距離・時間

○内海中から知多厚生病院 6.15km 8分

○豊浜中から知多厚生病院 8.83km 11分（南知多道路利用）



この図面は、一切添付書類等に使用できるものではありません。また、地番の配置を示したもので権利関係を確認するものではありません。



この図面は、一切添付書類等に使用できるものではありません。また、地番の配置を示したもので権利関係を確認するものではありません。

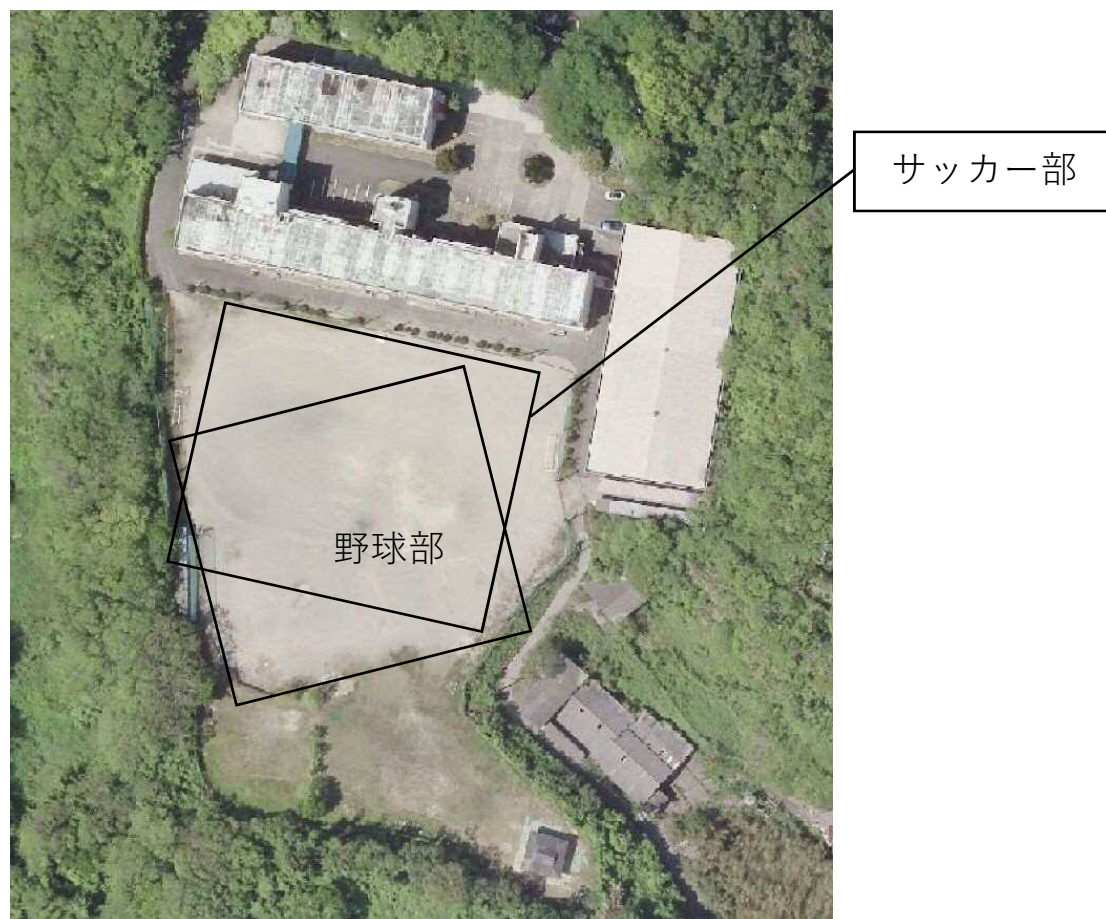
グラウンドでの練習スペース比較

資料 2

内海中学校 (現況の野球部とサッカー部の練習スペース)



豊浜中学校 (統合後のイメージ)



施設の状況比較・防災面の比較（抜粋）

資料 3

評価項目			内海中学校	豊浜中学校	
① 利便性	学校の位置（通学に係る利便性）		学校統合に伴い、バス通学（スクールバス・海っ子バス）を前提にした場合のバス通学対象者 《参考》R4 生徒数 【山海】 20人 【豊浜・豊丘】 78人 【大井・片名・師崎】 80人 【篠島】 40人 【日間賀島】 49人	学校統合に伴い、バス通学（スクールバス・海っ子バス）を前提にした場合のバス通学対象者 《参考》R4 生徒数 【内海・山海】 104人 【大井・片名・師崎】 80人 【篠島】 40人 【日間賀島】 49人	
	公共交通機関の利便性	最寄り駅までのアクセス	名鉄《内海駅》まで ・徒歩で約5分	名鉄《河和駅》まで ・海っ子バスで約30分 ・スクールバスで約15分 名鉄《内海駅》まで ・海っ子バスで約50分 ・スクールバスで約15分	
② 施設の状況	教室数	普通教室	6室 (398㎡)	5室 (338㎡)	
		特別教室	(理科室、音楽室、美術室、技術室、家庭科室2、コンピュータ室、図書室、特別活動室3、教育相談室2、進路指導室) 14室 (1696㎡)	(理科室2、音楽室、美術室、技術室2、家庭科室2、視聴覚室、コンピュータ室、図書室、特別活動室9、教育相談室3、進路指導室) 24室 (2405㎡)	
	施設の概要	運動場	面積	12,069㎡	9,332㎡
	駐車場の状況（通常時）		37台	25台 (職員駐車場の追加確保必要)	
	行事等開催時の保護者等駐車場（近隣施設利用含む）		約90台 (持宝院、町観光協会駐車場含む)	約95台 (役場、給食センター駐車場含む)	
	建物の健全性	体育館	吊天井落下防止対策工事の必要	なし	あり (武道場)
	躯体の健全度予備調査結果（本校舎）	コンクリート強度区分		○	△
残存耐用年数		予防保全により 20年以上共用可能	15年程度の共用は可能		
③ 防災面	津波浸水時の被害想定	建物	津波浸水想定区域外	津波浸水想定区域外	
		運動場	津波浸水想定区域外	津波浸水想定区域外	
	津波災害警戒区域	建物	警戒区域外	警戒区域外	
		運動場	警戒区域外	警戒区域外	
	学校における二次避難場所	場所	中学校の裏山	学校敷地が標高41mであるため、二次避難場所は設置していない	
		標高	50m以上		
移動距離/時間		0.5km/8分			

中学校教育活動における、アクセス面からの比較

	現在の一般的な教育活動、 今後行いたい教育活動の様子 (例)	内海中学校 (内海駅利用可能)	豊浜中学校 (河和駅までバス利用)
地域 交流	地域住民との各種交流 ・住民（大人、保育所、小学校）との交流活動 【※今後、増やしていきたい活動】	(町内での移動なので、学校の位置による優位性はほぼない)	
高校・ 大学 との 連携	中学生と高校生（内海高・日福高）・大学生（日福大）の交流活動 ・部活動交流や文化交流の場面を設定したい。 ・中学生が高校、大学（日福大）を訪問する。 ・高校生、大学生を中学校に招く。特に大学生には、外部指導者としての部活動の支援を期待する。 【※今後、増やしていきたい活動】	内海高は海っ子バス、日福大（付属高）は名鉄を利用しての交流可能。	名鉄、海っ子バスを利用した交流可能。
	日福大の「教職インターンシップ」、愛教大の「学校体験活動」の受け入れ ・大学の授業の一環で、教職を志す大学生が週に一度程度、小中学校での体験学習を行っている。 ・大学生にふれる中学生にとっても、年齢の近い学生との交流で学ぶことは多い。	鉄道利用可能なので、自家用車のない大学生にとっても活動しやすい。	名鉄と海っ子バス、または自家用車利用
	教育実習の受け入れ ・日福大をはじめ、各大学から教育実習生を受け入れる。 ・近隣地区（南知多町、美浜町）出身の学生が多い。 ・原則として公共交通機関を利用する。 ・大学生にふれる中学生にとっても、年齢の近い学生との交流で学ぶことは多い。	鉄道、バスで通うことが可能。	バスで通うことが可能。
他市 町の 中学校 との 連携・ 交流	中学校生徒同士の交流活動・部活動の試合 ・特別活動（生徒会活動等）における、連携しての活動 【※今後、増やしていきたい活動】 ・部活動における、大会参加・練習試合や合同練習	《他市町の中学校（試合会場等）に出向く場合》	
		鉄道を利用し、美浜町（野間中）、武豊町、半田市の中学校との交流が可能。	海っ子バスを利用し、美浜町（河和中）との交流が可能。武豊町、半田市の中学校との交流は、河和駅での乗り換えにより可能。
		休日の場合：中学校（or内海駅）に集合しての出発が可能。ただし、休日は自宅からの移動になることが多い。	休日の場合：自宅からの移動（現地集合または駅集合）になる。
		《他市町の中学校（クラブチーム）を招く場合》	
		鉄道を利用して来校する学校（チーム）は多い。保護者の送迎協力を得ての来校も可能。	海っ子バス利用、保護者の送迎協力を得て可能。

	現在の一般的な教育活動、 今後行いたい教育活動の様子（例）	内海中学校 （内海駅利用可能）	豊浜中学校 （河和駅までバス利用）
キャリア教育・進路指導	職場体験学習 ・県の「キャリアスクールプロジェクト」事業に基づき、主に中学2年（夏休み）に3日間程度、実際に各事業所にて職業体験を行う。 ・夏休みの活動ではあるが、事前打合せ等で平日に授業の一環として出かけることもある。	（夏休みの場合は自宅から出かけるので、学校の位置の優位性はほぼない） 平日の活動では、鉄道、バスを利用することが可能。	（夏休みの場合は自宅から出かけるので、学校の位置の優位性はほぼない） 平日の活動を行う場合は、バス利用になる。
	高校訪問（上級学校訪問） ・主に2年生が、進学先について視野を広げるために、名古屋市内、知多半島内の学校（公立高校・私立高校・専修学校）をグループで訪問する校外学習。高校では担当職員の説明のもと、見学や質疑を行う。平日の活動。	学校を訪問する計画を、グループごとに立てられる。「学校へ戻って振り返り（まとめ）学習」ということも可能。	出発・帰着の際に、スクールバスを活用し、駅まで学年一斉に移動する必要がある。
	体験入学 ・主に3年生が、希望校の決定に向け、個別で申し込み、それぞれの学校の説明会、体験会に参加する。休日、夏休みに実施する学校が多い。	（自宅からの往復になるので、学校の位置による優位性はほぼない）	
	受験校への出願 ・受験にあたって、願書を提出に行く。現状では原則として、受験校へは生徒本人が（試験当日の“下見”も兼ねて）提出に行くことが多い。	直接、鉄道が利用できる。	バスと鉄道の利用になる。
特別支援教育	自立活動・生活単元の学習 ・「自立」「生活体験」をねらいとして、公共交通機関の利用、民間施設・公共施設の利用・見学、交流活動などを行う。 ・学校周辺にて、自然の観察や近隣施設見学等をねらいとして、徒歩移動にて学習や交流活動を行う。	鉄道利用可能なので、遠方への各種活動も計画しやすい。 学校周辺は平地なので、徒歩移動をしやすい。また、商業施設も多いので、社会生活体験学習を行いやすい。	遠方へはバス利用で出かけることになる。 学校周辺は坂を往復しての移動が必要になる。
その他	職員の勤務 ・多くの職員は自家用車で通勤しているが、中には公共交通機関限定の職員も少数ながらいる。 ・特に、非常勤講師やスクールカウンセラー等、条件に見合う人材がなかなか見つからないこともある。	鉄道、バスでの通勤が可能。	バスでの通勤が可能。

【町内小中学校校舎に係る工事費等（30年間概算）】

ケース	必要な経費	町負担（30年間）
① 統合しない場合（5中6小）【改修】	92億円	61億5,000万円
② 統合した場合（3中5小）【改修】	62億1,000万円	24億3,000万円
③ 統合した場合（1中5小）【改修】	49億2,000万円	9億6,500万円
④ 統合した場合（1中5小）【新築】	67億2,000万円	18億6,500万円

【内海中学校または豊浜中学校に統合した場合に必要な経費の比較】

- ・不足する普通教室への改修費用や老朽箇所の修繕、その他改修は両校共通に発生するものとし、項目から除外した。
- ・必要な経費について、両校を比較した際、差がでる項目について概算で試算した。

区 分	内海中学校	豊浜中学校
吊り天井撤去工事	なし	武道場 1, 270万円
スクールバス（マイクロバス）購入費用 ・1台約634万円で試算 ※両島のバス必要数はどちらの学校でも同数なので除外した。 ※各中学校の人数に対しバス定員数（28人）により台数を試算。今後の検討でルート細分化や海っ子バスを利用ことにより、台数は増減することがある。	6台 3, 800万円	7台 4, 430万円
スクールバス運行費用 ・1台年間約184万円	6台分 1, 100万円	7台分 1, 280万円
バス高速料金（R4、5限定） 豊丘-南知多（片道310円）※特大車区分 登校：大型バス2台・1回 下校：大型バス2台・2回 ※R6からはすいせんロード利用（費用不要）	82万円	なし
グラウンド拡張費用	なし	造成等困難であり 算出不可
合 計	4, 982万円	6, 980万円

学校再編を進める上での配慮事項**(1) 地域の現状を踏まえた、「ふさわしい学校像」の理念の共有**

南知多町の今後のより良いまちづくりにつながる学校のイメージを明確にし、住民が共有する必要がある。教育目標、目指す児童像・生徒像、育てたい資質・能力といった、学校教育の目標を具体的に策定することが必要となる。また、併せて地域住民にとっても親しみやすく、身近に感じられるようにするための工夫が求められる。

(2) 児童生徒の環境変化への対応

統合により学校規模が拡大することに伴い、児童生徒の学習環境や生活環境、教職員との関係等が大きく変化するため、新たな生活に戸惑いが生じることに對しての配慮が必要となる。

こうした課題を最小限に抑えるため、次のような取組を進めるものとする。

- ① 円滑な移行が可能となるよう、事前に学校行事や部活動において統合予定校の児童生徒同士の交流を行う。
- ② 学習規律や生活規律等に関するルール、生徒指導の方針・基準等について統合対象校間で調整しておく。
- ③ 児童生徒や保護者の不安や悩みに関するアンケート調査を定期的かつ継続的に実施し、必要に応じ個別に対応する。
- ④ 教育相談の専門家(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)の支援を受けられる体制を更に充実する。
- ⑤ 特に、障害のある児童生徒に対しては、「個別の教育支援計画」の綿密な引継ぎとともに、支援に対し一層の配慮を図る。
- ⑥ 愛知県教育委員会と連携し、統合前から在籍している教員を統合後の学校にも一定数配置するとともに、統合後の学級編制や担任の決定について十分な配慮をする。

(3) 通学手段への対応

徒歩、自転車、スクールバス、海っ子バスの組み合わせにより、安全・安心を第一に、通学時間の短縮や通学による体力向上効果も考慮し、対応策を練る。

(4) 縦横連携教育の推進

① 地域の資源を生かす取組

統合に伴い、通学区域が拡大することや、一部の地域から学校がなくなることにより、統合後の学校と地域との関係が希薄化することが懸念される。

このため、統合により「学校が関わる地域を広げる」といった視点で、統合対象地区の教育資源を積極的に活用する(統合対象校で進められている「特色ある教育」を引き継げるようにする)。

② 他の小、中学校との連携

小学校の林間学校、修学旅行は町内全小学校、中学校の林間学校は町内全中学校が一緒に行き、交流を図る。

③ 部活動

中学校に設置する部活動は、従来各学校にあった部活動及び小学校での部活動を考慮して決定(小学校と中学校の連携)する。

(5) その他課題への対応

① より良い学習環境の整備

児童生徒へのより良い学習環境の実現に向けては、学校の適正規模以外での環境づくりも必要となる。このため、学校統合により削減できる費用を当て、学校施設の老朽化対策等、教育環境の全体的な整備を計画的に進めていく。

② 統合に伴う事務の計画的な実施

統合に伴い学校教育活動に支障が生じないように、必要となる事務について、教育委員会と学校の間や学校内部の教職員間で適切な役割分担をしながら計画的に対応する(必要により、専門の委員会等組織を設置し対応する)。

③ 廃校となる施設の効率的活用

廃校施設等の利用については、公共施設総合管理計画の中で検討(転用、複合化、撤去等)を進めていく。

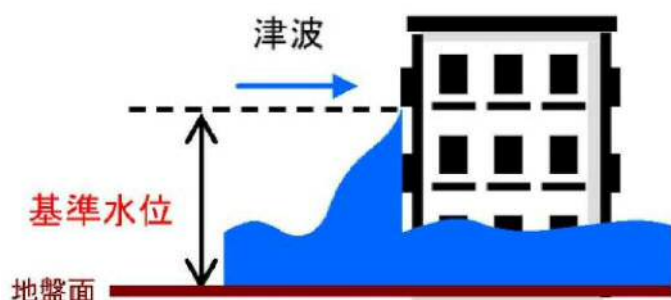
師崎中学校周辺の津波災害警戒区域

東日本大震災による甚大な津波被害を受け、最大クラスの津波から「なんとかして人命を守る」という考えのもと「津波防災地域づくりに関する法律」が作られ、この法に基づいて愛知県知事が令和元年7月30日に津波災害警戒区域を指定しています。



【基準水位】←上記図中の「青い数字」のことです

- 「基準水位」は、法第53条第2項に基づく水位で、津波の発生時における避難施設の避難上有効な高さ等の基準となるものです。
- 「基準水位」は、津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位であり、地盤面からの高さ（メートル単位）で表示しています。（下図参照）
- 津波災害警戒区域内にある池等の内水面は、基準水位を「-」で表示しています。



- ・周辺と比較し、師崎中学校近辺のほうが基準水位が低いことが分かります。
- ・基準水位は校舎まで到達しておらず、運動場であっても1m未満の予測となります。

<留意事項>

【津波災害警戒区域】

- 「津波災害警戒区域」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律123号（以下、「法」という））第53条第1項に基づく区域です。
- 「津波災害警戒区域」は、津波浸水想定（法第8条第1項）を踏まえ、津波による人的災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域です。

1 南知多町小中学校規模適正化懇談会で出された主な質問及び回答

資料 7

(第4回懇談会まで)

南知多町立小中学校規模適正化懇談会の目的と運営について		
番号	質問内容	回 答
1	要綱によると、この会の目的は、意見又は助言を求めることとなっている。会自体には決定権はないということによろしいか。	意見等を町に提案をすることになる。
2	任期は1年で終わりか。	要綱では任期は決めていない。ただし、この会の目的は、基本計画の策定であるので、今年度中ということになる。
3	基本計画の内容はどのようなことか。	基本計画は、適正化の方法、統合対象校、統合の時期、統合校の設置場所などの計画を明記する。
アンケート結果・意見交換会での意見を踏まえた学校教育の在り方（案）について		
1	コロナウイルスに対する予防、対応はどうなっているのか。	文部科学省や厚生労働省のガイドラインに沿って対応していきたい。
学校規模適正化の基本的な方針について		
1	統合により、削減できる額の使い道は何か。ハード面に投資すれば、統合は進めやすいと思う。	削減できた金額の使い道については、教育委員会としては、教育費に投入していきたいと考えているが、町全体の財政運営の中で考えていくことになる。
2	耐用年数が過ぎている校舎をまた改修するのか。新しい学校を整備することも大きな目玉と思う。	新しい学校を建設する経費と、既存校の改修経費を比較した場合には、既存校の改修の方が財政負担が少ないので、そちらを考えている。
3	統合先の選定にあたり、プールの有無の問題は考慮することになるのか。	プールのある学校は4か所で、現在でもその他の学校はプールのある学校に移動して授業を行っているので、移動する手間は必要だが、プールの有無は必須の条件ではない。

4	改修した場合、どれくらい先まで使えるのかある程度は分かるのか。その状況によっては、新しく建てることも考えるべきではないか。	現在、学校の長寿命化計画を作成中である。計画では、改修したとしても80年で改築を行うことにしている。つまり、改修すれば20年以上は使うが、最長使用しても80年というものになる。
5	改修する費用と新築する費用の比較はあるのか。	新築する費用は概算では、1校当たり30億円と試算している。改修費用は、どこまで改修するかによる。
6	改修しても10年20年先には児童生徒が減少する。そのことはどう考えているか。	新しく学校を建設する場合、見込まれる最大時の児童生徒数を考慮した面積で建築する。小規模化が進むので、改修をして20年後に新築する場合は、児童数の減少に合わせた校舎面積で建設するので、費用は少なくすむ。
7	跡地利用について、この会とは別の会を立ち上げるとか、検討委員会みたいなものをつくる考えはあるか。	教育委員会だけのことではなく、町全体の方向性のことになるので、町として跡地の活用について検討していく。
小学校の適正配置（小学校の統合）計画について		
1	大井小学校と師崎小学校を統合して師崎中学校に配置することは可能か。	教室については、師崎中学校の普通教室は5室だが、特別教室が15教室ある。その特別教室を改修して普通教室にすることができると考えている。中学校の校舎を小学校として使うためには、例えばトイレの改修、階段手すり、バスケットゴールの改修が必要となる。
2	令和4年4月という統合時期については何か理由があるのか。	将来、大井小学校、師崎小学校の児童数が、一桁の学年が半数近くなる。また、男女比も偏りがあるのでそういったことを少しでも早く解消したい。ただ、統合については、調整することが多くあるので、早くても令和4年となる。
3	大井小学校と師崎小学校の統合先を師崎中学校とする選択肢があるのか。	小学校は中学校区に一つという基本方針なので、師崎中学校を統合先にするという選択肢はある。
4	師崎中学校をそのまま残したままで、大井小学校、師崎小学校と、師崎中学校が一緒にその学校で授業を行うことになるのか。	師崎中学校を残した時に、そこに大井、師崎小学校が入ると、クラス数が、普通学級6クラスと特別支援学級を2クラス作ることになり、中学校と合わせて普通教室が13学級必要となる。特別教室を減らすことになり、師崎中学校で小中同時に在校するのは難しいと考えている。

5	師崎中学校が空くというのは、スケジュール的には可能なのか。	本来だと統合校の建物もいろいろな設備も完備し、準備できたところに統合するところだが、町の財政面や少しでも早く実施をしないと子どもたちのためにならないということを考えて、令和4年としている。令和3年は中学生がまだ在校している段階だが、例えば夏休みや春休みを使いながらできる工事は進めていく。統合後に行う工事もあるかもしれない。学校名、校歌等、検討すべきことはたくさんあるが、この懇談会が終わって、町議会に説明した後は、学校、PTAを含め準備の会を組織することになる。
6	大井小学校に統合したら、プールがないので、児童のいない師崎小学校に行って、授業を受けるのか。	南知多町のプールは、内海小、豊浜中、師崎小、篠島小にしかない。それ以外の学校の子どもはスクールバスを利用してプール設置校に行き授業をすることになる。
7	人が住まない学校のプールの管理はとても危険な気がするが、この点はどうするのか。	師崎小に統合しない場合は、例えばシルバー人材センターなどに管理委託をすることなどを考えている。
中学校の適正配置（中学校の統合）計画について		
1	提案では、第一段階は、3中になっているが、町としての本音はどこにあるのか。最終的に1中にする気はあるのか。あるのなら、最初から、1中にした方が良くと思う。町としてずっと島の学校を残す気があるのか。	教育ということを考えると、目指しているのは1中である。たくさんの人と出会って中学校生活を送らせてあげたいので、そういう意味で、篠島、日間賀の子も一緒に統合したいと思っている。ただし、中学生は船で通学することになり、中学校も地元に残して欲しいという声があれば無理やり統合することはできない。
2	篠島中と統合校の2中という案はあるのか。	地域の方が納得できる段階で一緒になれば良いと思っているので、途中の段階では2中も選択肢としてはある。
3	両島の生徒が半島側に通うこととなった場合に、島からの船が豊浜漁港に入ることは可能か。そうなれば、豊浜中学校に通うことが、時間も距離も一番短くなる。	名鉄海上観光船に確認したところ、就航の許可、設備、費用の問題はあるが、深さについては、可能ということである。実際に就航できるかについては協議をしていない。船を降りてから、豊浜中学校まで移動することになるので、時間がかかり現実的ではない。
4	内海中となった場合、海っ子バスを使うということだが、乙方、山田地区の生徒が通うに	内海中となった場合、豊丘、大井、片名、師崎地区は、海っ子バスを利用すると、現在のダイヤでは、乗り継ぎが悪いので、スクールバスを考えている。

	は乗り継ぎが必要になる。逆に、内海の生徒が豊浜中学校に来る場合も直通がない。特別な配慮はあるのか。	豊浜中となった場合、内海・山海の西村、小野、岩屋地区は、6キロを超えているので、スクールバスか海っ子バスの利用を考えている。海っ子バスを利用する場合、豊浜停留所から徒歩となるので、自宅の近くに停留所がない地区では、1時間を超えてしまう。そのため、地区によっては、スクールバスの利用を検討する。
5	内海中学校に統合する場合、日間賀や篠島、師崎からバスで40分ぐらいかかるが、高速道路を使うことはできないのか。	高速道路を使う場合と、使わない場合の所要時間などを比較して検討していく。
6	豊浜中を選ぶなら運動場の改修が必要と思うがそういった計画はあるか。	豊浜中が統合先となれば、運動場の改修も検討することになるが、用地を購入したり、谷を埋めないといけなくなる。災害時の安全性を考えると難しい。現在、計画はない。
7	日間賀、篠島、豊浜、内海の4中は考えられないか。	懇談会の意見を尊重したいと考えているので皆さんの意見がそうなら、考えなければいけないと思っている。町がむりやり統合しようとは考えていない。
南知多町が目指す学校教育について		
1	公共施設等総合管理計画はいつ完成する予定で進めるのか。	町内全体の公共施設の計画を作るため令和3年、4年の2年間で作成する予定である。
2	定期船活用の検討とあるのは、何を検討するか。	現在は、朝、篠島からの船が日間賀を経由して師崎に渡るが、可能なら、「篠島から師崎」、「日間賀から師崎」のそれぞれ直通に変更できないかの検討などである。

2 南知多町小中学校規模適正化懇談会で出された主な意見・要望

(第4回懇談会まで)

学校規模適正化の基本的な方針について	
番号	意見内容
1	師崎小学校の複式学級については、避けるべきだと思う。中学校の小規模化については、自分の子どもが年少から中3までクラス替えがなかったので、同じメンバーで過ごしている。クラス替えの経験や部活動の幅を広げるために解消してほしいと思う。
2	内海小学校と山海小学校の統合の際、統廃合によっていじめから救われた子がいた。子どもと地域との関わりは、学校の中でも学んでいってほしいが、小規模による統廃合により、クラスの子どもの数が増えることは、よくも悪くも多くの人と関わるといことになるので、廃合の話を推進してほしいと思う。
3	建物のことの議論が多いが、子どもたちが安全に通れる道とか交通の便とかも重要だと思う。もし、豊浜に統合なら、道路が安全で、ちゃんとした道があれば師崎から自転車で通うことができる。豊丘の中学生は、坂道を自転車通学している。建物も重要かもしれないが、小学生は危なかったらバスを使うとか、増やすとかの対策の方が重要だと思う。中学生なら山道は無理かもしれないが海沿いなら平坦なので子どもは自転車で通学できると思う。
4	道路も含め、跡地利用も含め、地域に任せるのではなく、町全体で取り組んでいく問題だと思う。そうすると、南知多町は統廃合でこういう町に変えていくということが発信できると思う。地域が利用するなら地域で利用してくださいというのではなく、町として、他の部局を巻き込んでの提案を示していただくと話し合いがしやすいのではないかな。
5	大きな学校になるといじめがなくなるのかはわからない。デメリットも必ず出てくると思う。
6	他のお母さんから、小学校中学校を分けずに、小中一貫校という考えはできないかという意見があった。そのお母さんは、子どもが何年生かのときに友達と大変なことがあったから、小中一貫校であったら、違う解決方法があったのではないかとされた。
7	根本的な質問だが、島を含めるか含めないかを話さないと、漠然としていてわからない。また、学校も新しく作るか改修するののかも形が決まってからでないと意味がないと思う。子どもの意見を聴くことは、子どもが通う学校なので賛成。
8	20年後のことを考えると税収も減るといことだが、今、私たちが意見を出して「存続」とした場合、経費がかかってしまうことになり、判断は本当に難しいと思う。町として、税収を見込み、これぐらいになるからこれぐらいの学校数にしたいというのが見えると

	もう少し考えやすいと思う。
9	複式学級の回避というのは、ならない方が良くということだと思うが、良い面もあるのかなと思う。
10	保護者対象のアンケートでは、島の場合は通うのが一番ネックで反対というのが多くあった。その後、対策を練っていただいて、例えば台風などで船がとまったら、どうなるかというのを示してもらったが、そういうことを踏まえてアンケートをもう1回取ってもらえたらどうかと思う。
小学校の適正配置（小学校の統合）計画について	
（大井小と師崎小の統合について）	
1	今、自分の子どもが師崎保育所だが、4歳で3人しか同級生がいない学年なので、早急に統合してほしい。
2	自分は町外出身者だが、地元出身者は学校に対する思い入れがある。自分としては、子どもが少なく、男女比の比率も悪い現状なので、早く統合をして欲しいと思う。令和4年統合に向けて課題もたくさんあるかとは思いますが1日でも早く統合していただきたいと個人的には思う。
3	大井小、師崎小の両方の小学校が、早めに統合という考えで良ければそれで良いと思う。
4	地元のこともあるとは思いますが、子ども達のことを考えると一刻も早く統合を進めた方が良いと思う。豊浜小との統合でなくても良いと思う。
5	個人の意見だが子どものことを考えると、年々人数が減っているので早めに統合をと思う。
（統合場所について）	
1	大井保育所でアンケートボックスを設置し、広く意見を募集した。その中では小学校は「海の近くは避けた方が良い」という意見が多くあった。
2	設置場所をどこにするのかは、地元の方の意見の方が、状況を知っているので、安全性も考慮できるのではないかな。
3	運動場の広さは、統合して人数も増えるが、自分が小学校のころはもっと多かったので、師崎小は狭いが大丈夫だと思う。
4	大井小、師崎小の運動場の広さの違いはほとんどないので、運動場はどちらでもよいと思う。
5	少し飛躍した意見だが、師崎中に入るためには、改修が必要となる。師崎中学生が在学中に工事をするのでは、トイレ、階段の改修も必要となるので間に合わないのではないかな。それなら、一時的に大井小、師崎小のどちらかに入って、中学校が準備できれば師崎中に入るという段階的な案もあると思う。ただ、子どもの統合先が変わるのは調整が必要になってくる。
6	今まで師崎で自分が暮らしてきた中で、津波に対しては多少不安もあるが、師崎中でいくしかないかなと思う。

7	師崎中学校は、大井、師崎の真ん中というのが一番大きい理由だと思う。大井に住んでる方が師崎に行ったり、師崎に住んでいる方が大井に行くというのは、なかなか心情的に、抵抗があると思う。師崎中でしたら位置的なことでも理解されやすいと思う。
中学校の適正配置（中学校の統合）計画について	
（統合場所について）	
1	話をした島のお母さん方の中では、中学校の統合は賛成する方が多かった。令和4年4月を目標とする中で、一度町の方が、島に対して、どういう対応を考えているか、対象となる方にきちんとした場で話していただきたい。日間賀の保護者が統合しないと言えば統合しないのか、町としてはどうしたいのかも説明して欲しい。
2	両島を含めて、中学校は一つにしてもらいたい。後々の統合は絶対に必要になってくるので、このタイミングで統合したいと思う。お母さん方の負担や心配も多くなると思うが、対応を考えていただければいいと思う。成績や、部活のことを考えるとこの時期に1中にしてもらいたい。そう考える日間賀島のお母さんも結構多い。
3	島の学校の統合は、子どもの親の意見が大切だと思う。現時点で統合しても良いという意見が多ければそうしても良いし、少なければまた考えればいいのではないかな。自分たちの世代が、強制的に「町が統合しろと言っているから、そうしろ」とは言えないので、親の意見に従うべきと思う。
4	町が、3中か1中かを決めて欲しい。もし、3中ということなら、自分たちがここで話す意味がなくなる。自分は、もともと、1中でも良いと思っている。通うことに島の子どもの反対意見はあるが、それは、船で通わせる以上、10年後、20年後でも同じ意見が出ると思う。
5	事務局の素案は、アンケートを参考にして、まとめられている。また、PTAを対象とした意見交換会で話をしたことも参考にまとめられている。現行年度の篠島小のPTAでは、なかには1中を希望する方もみえるかもしれないが、通学に課題があるということで、安全性に懸念を持っている。例えば、地震や台風のときの対応とか、ケースごとの対応の回答が得られていない。 令和4年で1中になるのは、難しいと考える。今のPTAの意見では「10人から15人各学年に児童がいるので、その人数の間は、地元の中学校で」と考える方が多い。さきざきには、一桁の人数の学年も出てくるので、そうなってくると統合の意見も強くなるかもしれない。令和4年に1中は難しいが、ある程度の段階で、保育園の保護者も交えて話し合いが必要と思う。話し合える場所をつくっていただきたい。
6	小学校のPTAとほぼ同じ意見。役員に話を聞くと、今の現状では、統合という親はいないが、さきざき人数が減ると統合を考えるとこの意見であった。今回のような会を何年後かに開いてもらい、篠島も人数が少なくなったので統合中学校を検討できる機会を持って

	いただければ、今は、このままで行きたいという意見が保育園としては多かった。
7	環境の変化や通学手段の心配。
8	トラブルやいじめの不安が強い。
9	中学校は小学校とは別の時期に統合した方が、受け入れやすいのではと思う。
10	令和4年の統合は早すぎるのではないか。もうすこし期間をおいて考える必要があるのでは。
11	母校がなくなる経験があるので統合は受け入れが難しい。
12	交通量の多い中で自転車で通学させるのは危険である。
13	スクールバスの土日の運行も考慮してほしい。
14	統合する場合、特別な支援が必要な生徒の登校を支援してくれる方が必要である。
15	篠島小PTAの意見のまとめとしては、今の段階で令和4年の統合は難しい。
16	意見交換をしたが、反対の意見が多かった。篠島に住んでいるとその地域の歴史もあり、急に令和4年からは統合できない。
17	他校などとの交流はたまにはではないと思う。学校教育の場では、他の地区との交流や高校、大学との連携は大事なことである。
18	2年後は早すぎると思うが、10年後となるとまた同じ事をしないといけない。親としては、ここで区切りをつけたい。町の人口は増えることはなく、減っていく中で、20年後30年後を考えると、どこかで区切りをつけないといけない。
19	島の方みんなが思うのは、課題は確実にあり、要求は飲んでもらわないと統合は進まないということ。
20	町がいつ統合とか決めないと、こういうことをいつまでもすることになる。令和4年で統合と決めればそれに向かって考えることもできる。「どちらでもよいのであなた方決めてください」では決まらないと思う。
(統合場所について)	
1	懇談会で、学校の視察をした。時間がなかったので外からの様子しか見えなかったが、校長先生からは、内海中学校の築年数は古いですが、見た感じが新しく感じるの、修繕がしっかりされているからだということを知っていた。子どものアンケートをみたら、部活動をやりたいというのがあった。内海中のメリットになるが、運動場は広い。豊浜中の場合、運動場が狭いので今後、広くするのかが気になる。通学では、内海中の場合は、バス通学だが、豊浜中になった場合は、内海中、師崎中の生徒は、自転車通学という話を聞いたので、それが事実なら危ないと思った。
2	施設面、ハード面から見ると内海中が一番良いと思うが、子どもが毎日通う学校なので、特に大井、師崎地区の生徒も通うことの時間的負担を考えると、内海の生徒が内海中に通うことと、大井・師崎の生徒が内海中に通うことの時間的格差が学習にも影響してこない

	のかなと少し思う。それを考えると、中間的な場所にある豊浜中も、少しは可能性があると思う。確かに、グラウンドは広くはないが、統合したら、運動会は運動公園を借りても良いのかなと思う。仮に3中になった場合、町全体で運動会をしたらどうかと思う。そうしたら、運動場の狭さや駐車場の問題はカバーできるのではないかと思う。
3	両島も一緒になる場合、内海中はきついのかと思う。どちらかというとな後の事を考えると豊浜中の方が無難という気がする。
4	内中は他校との交流の利便性が良いが、たまにある交流よりも毎日通う生徒の利便性の方が大きいと思う。
5	内海中だと大井からの通学が遠くなる。移住してくる方が増えてきたのに、通学が遠くなるので住む人が減るのではないか。
6	地区から中学校がなくなると人が出て行ってしまわないかと心配の意見がある。
7	災害のこと考えると、豊浜中が良い。
8	篠島小では、将来の少人数を考えると統合したいという思いになるかもしれないが、その際に内中だと困るという意見が多くあった。

3 南知多町小中学校規模適正化懇談会で出された方向性

(第4回懇談会まで)

項 目	意 見 内 容
大井小学校と師崎小学校の統合	令和4年を目標に、大井小学校と師崎小学校の統合を進める。
大井小学校と師崎小学校の統合先	位置が地区の中間であること、運動場がひろいこと、教室数も十分あるため統合の位置は、「現在の師崎中学校の位置とする」。
他の地区の小学校の統合	第1段階でそれ以外の学校については、児童数の推計から見ても複式学級が見込まれないため、当面の間は存置する。複式学級が見込まれる段階に統合を考えていく。

児童生徒アンケート結果

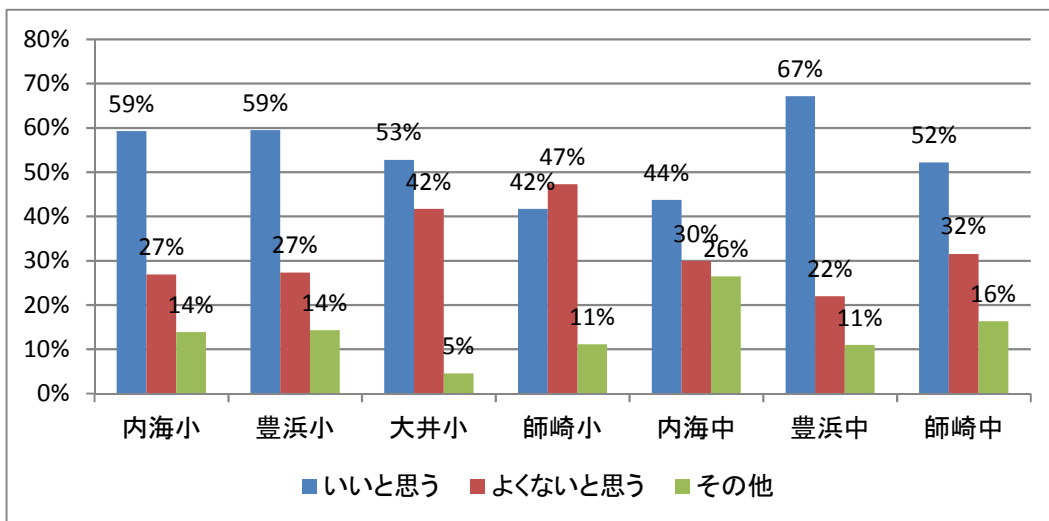
アンケート対象: 町内全ての学校の小学4～6年生、中学1～3年生

2 中学校について

(5) 内海・豊浜・師崎・篠島・日間賀中学校を統合して1つの中学校にする。もし、通学に船を利用する両島からの通学が難しいのであれば、内海・豊浜・師崎中学校を統合し、町内には、統合した中学校・篠島中学校・日間賀中学校の3つの中学校とする意見についてどう思いますか。(自由記述)

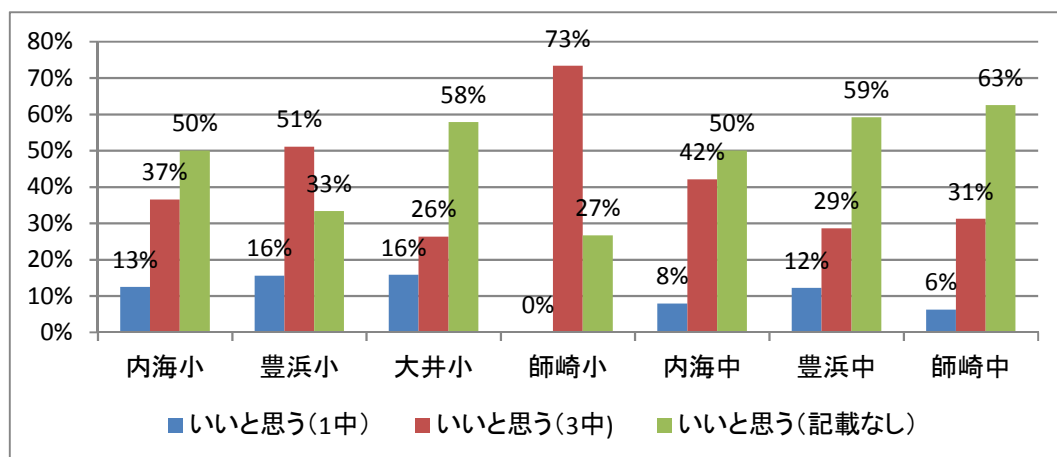
質問に対する児童生徒の学校別回答(抜粋)

※教育委員会が自由記述の内容を確認し、振り分けを行った。



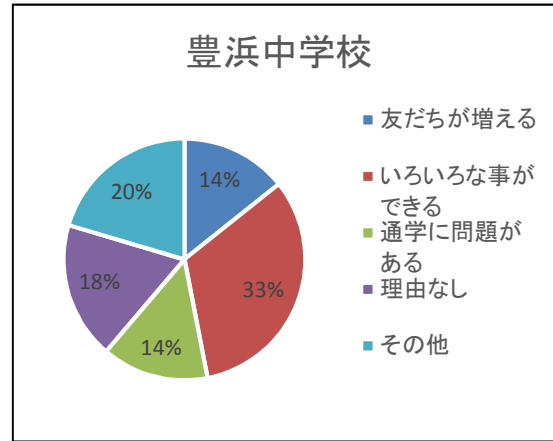
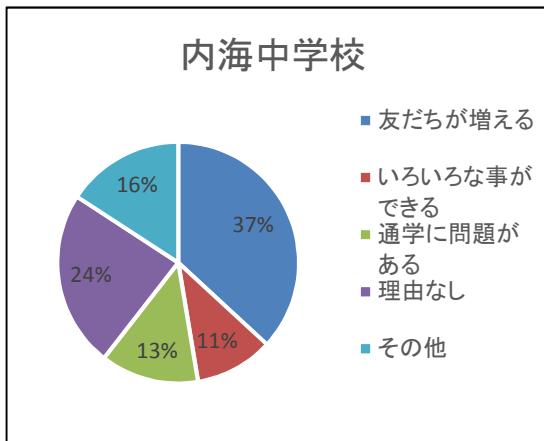
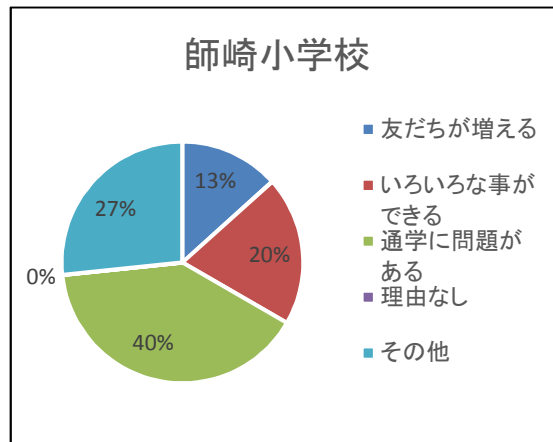
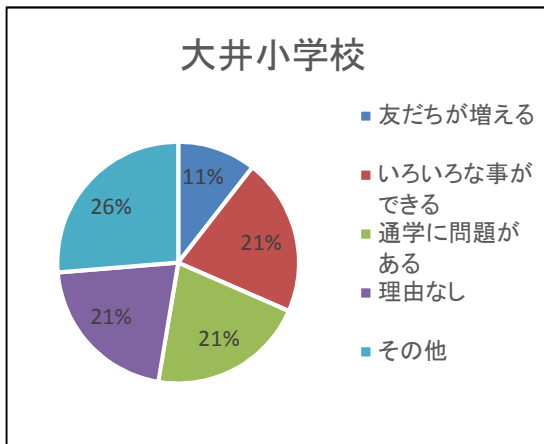
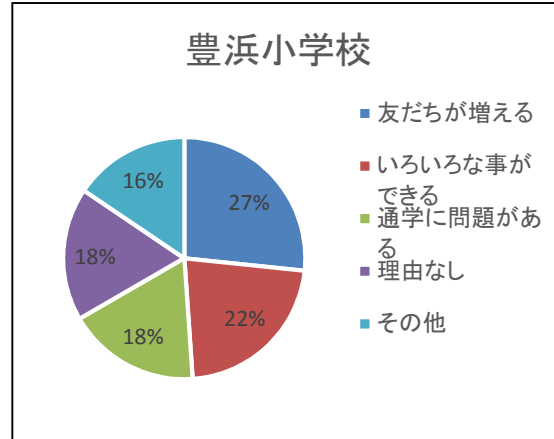
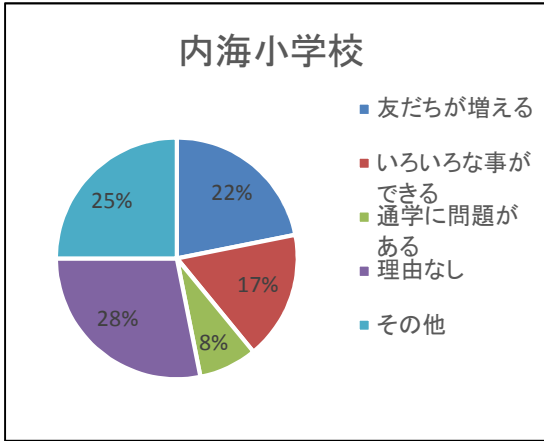
○師崎小学校以外は、「いいと思う」意見の方が、「良くないと思う」意見より多い。
 (師崎小学校で「いいと思う」意見の方は、15名、「良くないと思う」意見の方は17名)
 ○豊浜中学校では7割近くの方が、「いいと思う」意見である。
 ○大井小、師崎小では、「いいと思う」意見と「良くないと思う」意見は、ほぼ半々であるが、師崎中では、「いいと思う」意見の割合が高くなっている。小学生と中学生では考えの変化が見られた。

いいと思う意見の内訳



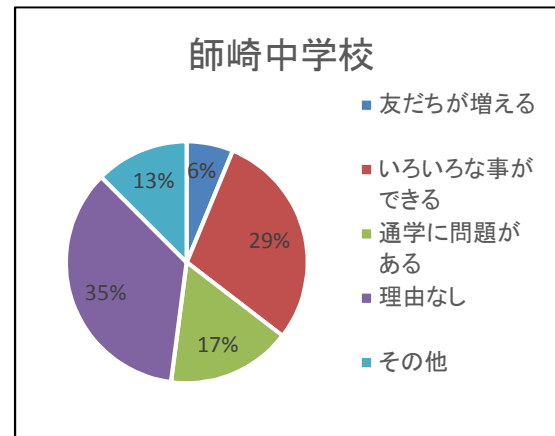
○両島の児童生徒に比較して、「1中がいいと思う」、「3中がいいと思う」と記載していない児童生徒数が多い。
 ○「いいと思う」意見の内訳は、いずれの学校も「3中がいいと思う」と記載した児童生徒の方が多。

「いいと思う」意見の理由(学校別内訳)(抜)

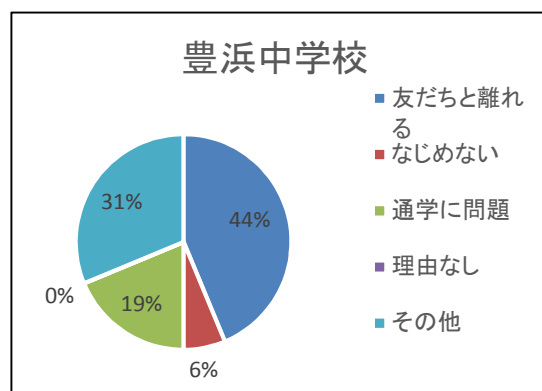
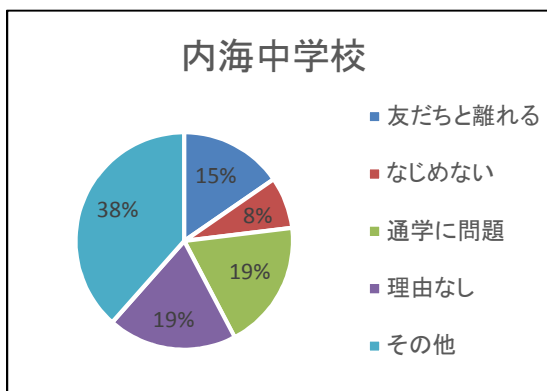
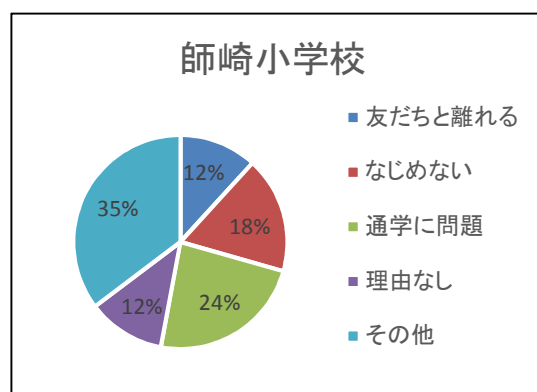
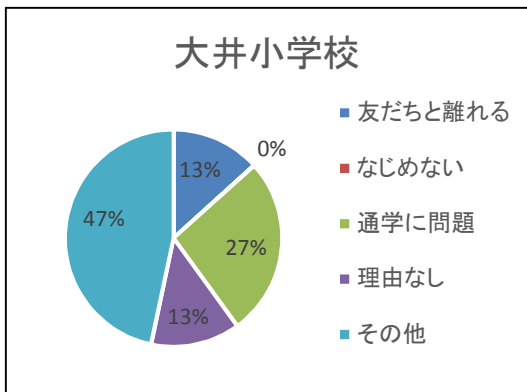
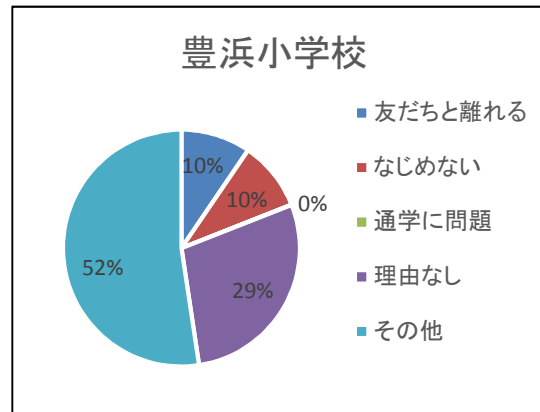
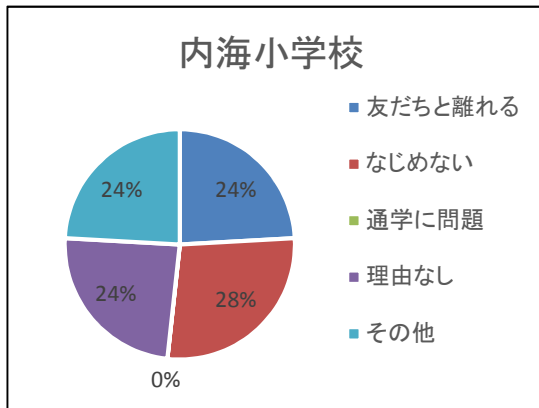


○「通学に問題がある」という意見は、全て「3中が良いと思う」意見の理由として記述されている。大半が、両島生徒の通学の負担を心配してのものである。

○「よいと思う」意見のほとんどの理由は、「友だちが増えること」、「(人数が増えることにより)いろいろなことができる」という理由である。



「よくないと思う」意見の理由(学校別内訳)(抜粋)



○内海小、豊浜小では、「通学に課題」をあげる児童はいない。
 ○内海小、豊浜中では、「友だちと離れる」「なじめない」という回答が多く、人間関係に不安を感じる意見が多い。
 ○大井小、師崎小、内海中、豊浜中では「通学に課題」をあげる児童生徒2～3割いる。

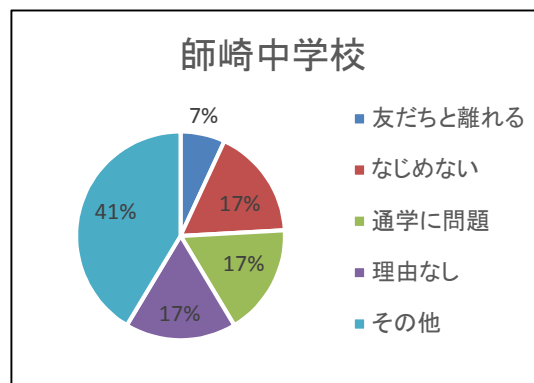
◆主な意見:

「バスはどこで乗るのか」

「家から遠くなる」

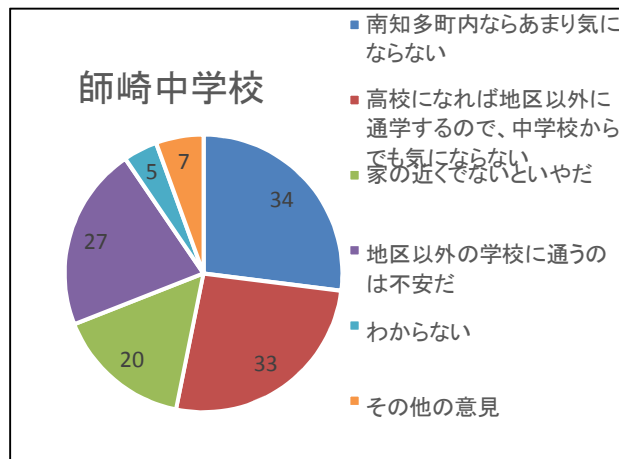
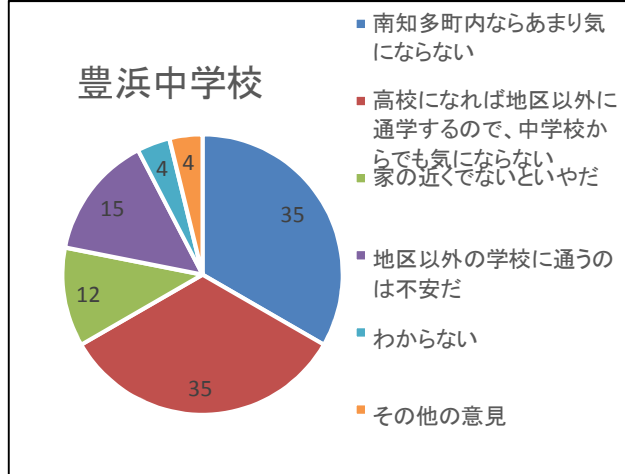
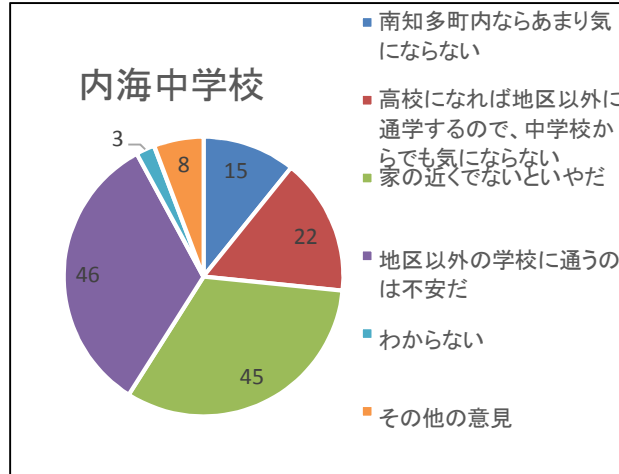
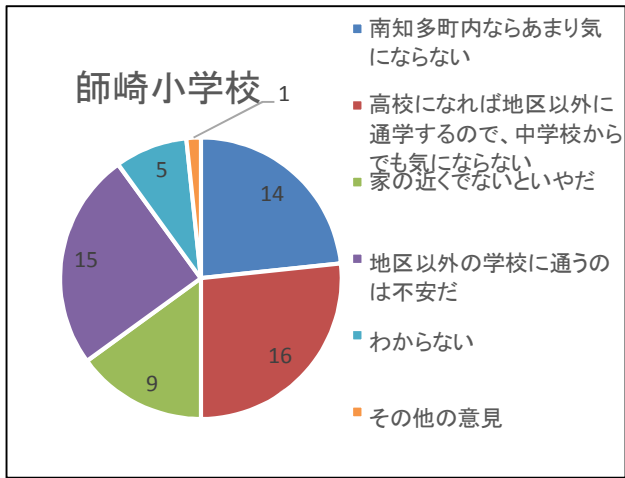
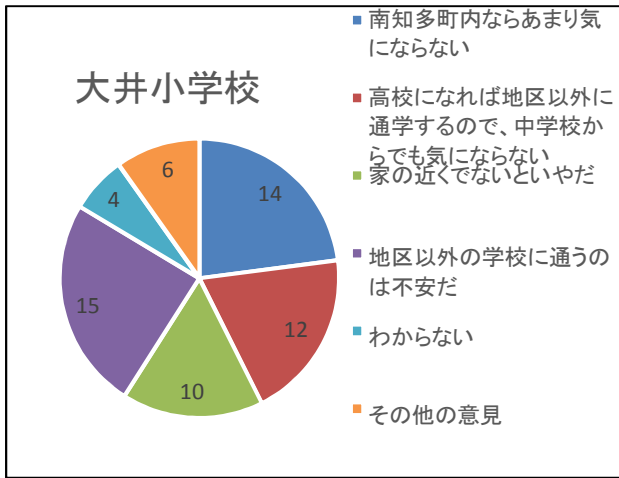
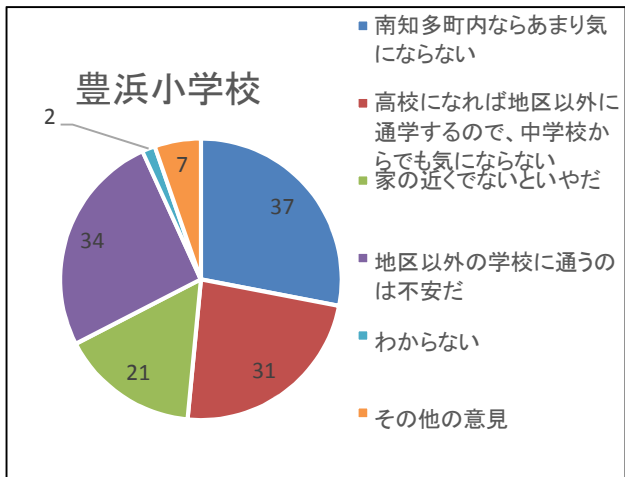
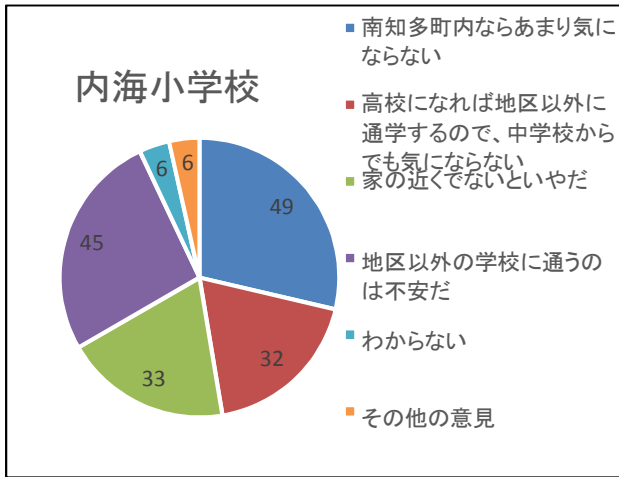
「バスに乗りたくない」

「他の地区になると、朝早く起きなければならない」



児童生徒アンケート結果

(4) 中学校が自分の住んでいる地区以外になることについてどう思いますか(選択式・複数回答可能)



グラフの単位: 人